

PACガーディアンズ通信

第10号

PAC-Guardians

2011年4月5日

東日本大震災(東北、関東大震災)

平成23年3月11日(金) 14時46分発生!

3月11日の震災後、PACGの会員の皆様にはどのようにお過ごしでしょうか。

後見関連の方々、コミュニティフレンドの方々のご様子は直後に確認し、皆様ご無事だということで、ほっと一安心しております。しかし全国的な被害の様子が徐々に集約されるにつれ、驚きと悲しみと悔しさがこみ上げてきます。また福島原発は一進一退の状態が続いています。

私たちの千葉も被災地の一つです。回復にはまだまだ長い時間がかかるでしょう。しかし、これを機に、私たち一人ひとは、決して孤立して生きているわけではないという想いを強くしています。

新しい共生社会を作りたいですね。

理事長 佐藤彰一

第6回「事例検討会」

☆日時 5月7日(土) 14時~16時

☆会場 船橋市勤労市民センター 2階 第2講習室
震災の影響で延期(当初3月12日予定)とした成年後見事例検討会を開催します。事例は、PACGが法人で受任しているケースです。PACGでは、現在受任している他のケースも含めて、事務執行者の変更(後見事務登録者の活用)を考えています。成年後見人候補者養成講座を受講し、候補者として登録していただいている方に、更なる研鑽と委任に当たっての情報の提供をお願いしたいと考えています。後見事務登録者の方、顔を見せ、声を聞かせてください。

理事 専門家委員会委員長 小川裕二

仙台から乗った新幹線内で震度7強! その頃銚子では!?

東総ネットワーク 社会福祉士 滑川里美

3月10日から母と仙台に旅行にでかけていました。11日に母の体調が悪くなり、新幹線で東京に戻る途中で大地震に遭いました。母が体調を崩さなかったら、震災に巻き込まれていたと思います。新幹線は、那須塩原付近で停車。車内の電源が切られ、車内アナウンスがなくなり、携帯も通じず、全く情報のない10時間でした。

車内で一番困ったのがトイレ。2時間もすると各車両のトイレの便槽が満杯になりました。先頭車両のトイレに段ボール箱の上にスーパーのレジ袋を被せた簡易トイレを作り、若い車掌さんが排泄物を捨てる作業を「皆さんにご迷惑をおかけして申し訳ありません」と謝りながら嫌な顔せず何時間も続けてくれました。

車内では勝手な憶測やら、不確実な情報も飛び交い、そして、余震の強い揺れと横風の揺れで新幹線が転覆するのではないかと不安な空気が重たかったです。暖房が効かないので、外気の寒さを防ぐため窓のブラインドを閉めて真っ暗闇の中、乗客のみなさんの声だけがほっとできるものでした。私の車両には、夜中の12時半ごろに避難所へ移動できる連絡が入りました。停車していた場所が那須に近かったので避難先は、那須湯本温

泉の旅館の大広間。暖かなお茶やおにぎりやよく人心地もついた頃、携帯電話の充電やロビーのテレビを見ることができて、かつてない大震災であることがわかりました。

翌日の午前中に息子がレンタカーで迎えにきてくれ、余震のなか母を東京の病院に送りました。東京からは銚子方面への電車が運休、高速バスでなんとか銚子に到着しました。

私が留守の間、私の支援をしている障害のある方たちは関係者の皆さんがフォローして無事でしたが、ブロック塀が壊れたり、液状化で傾いてしまった家もありました。当たり前だったことが出来なくなった不自由さが、日常生活の様々な場面で生じました。

ある人は断水でトイレが流せず、排泄物を処理しよう(?)としてトイレトーパーを詰め込みます。バケツに水を汲んで流す手順を紙に描いて練習を繰り返しました。また、ある人は避難所から戻ったら部屋の中が散乱しているを見て、泥棒に入られたと110番通報、警察官を呼んでしまいました。





ご本人たちに地震のせいだと説明しても理解はできません。ご本人たちの感じている不安一つ一つに対応しながら、その日その日が安心して暮らせるように、関係者との連携を密に対応しました。

震災から20日が経ちました。今までは各関係機関が自分の関わっている方たちへの個別支援を中心に活動をしてきました。ようやく各関係機関が支援状況を持ち寄り、全体像を把握して、次にやることを検討できる時期になりました。現在の課題は、何処が検討の場をコーディネートするかだと思います。(23.4.1 記)

コミュニティフレンド

前年度(平22年度)の県との協働事業が終了いたしました。CF 養成講座を開催するにあたってご支援ご協力をいただきました方々に心より御礼申し上げます。お陰様で3月末で45組となりました。たださすがに5年目ともなると、このような関わりで良いのかと悩んだり、障害のある方との付き合い方に難しさを感じている方など、それぞれのペアからいろいろな課題を伺っています。初期はコーディネーターの役割としてマッチングに力を注いでいましたが、最近はフォローアップにも心を砕くようになってきました。またこれまで続けてきた意味が県内でも評価されるようになり、県外からの問い合わせも増えています。CF委員会にも新たに若い人材が増えてきました。今後はさらに安定的な運営を検討してまいります。

副理事長 名川勝

CFコーディネーター 松本智子

特定非営利活動法人 PAC ガーディアンズ

理事長 佐藤彰一

事務局 船橋市西習志野4-24-17

Tel.047-465-9022 FAX も同じ

E-mail info@pacg.jp

ホームページ → <http://pacg.jp>



PACGの最近の動きから

PACGも設立(NPO法人化)から5年余が経過し、いろいろと変更すべき点もでてきたように思います。そこで、最近の理事会、専門家委員会で話題となっている諸点から、若干フライング気味ながら、情報を提供します。

まず、事務所についてです。電話での相談など、田川事務局長に負担がかかり過ぎているように思われます。体制の確立を模索しています。

次に、財政面です。安定した財政のためにも、事業の積極的な展開と報酬額の分配比率の変更を考えています。

事業の展開という点では、成年後見に係る活動、成年後見登録員の活用、財産管理(年金管理等)業務の実施などが検討されています。また、報酬額の分配比率という点では、当面、利用者からの報酬額の分配比率を、PACG:事務執行者=3:7(現行1:9)にしたいと考えています。

理事、専門家委員会委員長 小川裕二



地域のうごき 船橋市

船橋市手をつなぐ育成会では7年間の中だるみ?いえ、喧々譁々の議論を乗り越え、ようやく「**うるかむ権利擁護サポートセンター船橋**」を立上げました。

3月24日付けで千葉県からNPO法人の認証書が届きました。これからが大変です。

船橋の親たちはかなり恵まれている?将来のことを考えずに済んでいる?いえ、そんなことはありません。障害のある子ども達の永遠の幸せを願い、権利擁護や成年後見制度と一緒に考えるため、活用していただける場所にしたいと思います。

申請書類が受理された日、紫のカーネーションを一輪買いました。花言葉は“**永遠の幸せ**” 子ども達のために祈ります(A)



編集後記 大震災の特集にいたしました。

3/23、選抜高校野球大会で、創志学園主将の宣誓「今、多くの命が奪われ、悲しみで一杯です。被災地は仲間が一丸となり、頑張っておられます。仲間に支えられることで困難を乗り越えられると信じています。がんばろう日本! 生かされている命に感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います。」被災地で明るい笑顔を見せる子ども達にも元気を貰いました。